

■コメント

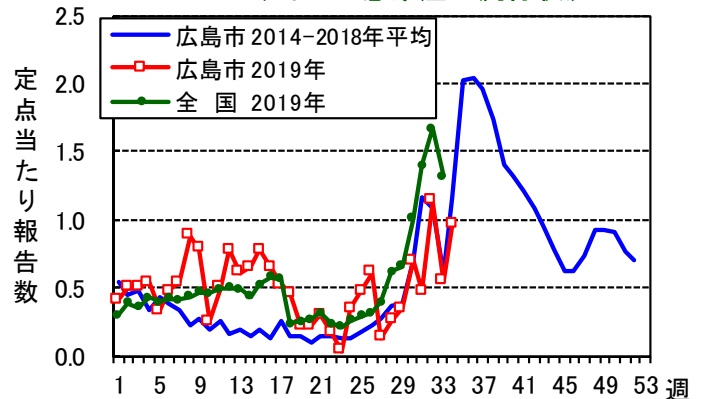
RSウイルス感染症の流行状況

1. RSウイルス感染症

定点当たり0.96人の報告がありました。
全国的にも報告数が増加していますので、手洗いの励行、咳などの症状がある場合にはマスクを着用するなど感染予防対策を徹底しましょう。

2. 日本紅斑熱

1件の報告がありました。
日本紅斑熱はマダニに刺されることで感染します。
山や草むらに入るときは、長袖・長ズボンを着用するなど、肌の露出を少なくし、マダニの付着を防ぎましょう。(次頁参照)



第33週はお盆期間中で、医療機関の休診の影響により患者報告数が少なくなっている可能性があり、正確な比較ができないため、第34週は「定点把握感染症報告状況(週報対象)」(下表)の発生記号の表示を行っていません。

■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年(注)間	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年(注)間	発生記号
小児科	インフルエンザ	3	0.08	0.01		小児科	流行性耳下腺炎	1	0.04	0.68	
	咽頭結膜熱	9	0.39	0.37		眼科	RSウイルス感染症	22	0.96	1.16	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	32	1.39	1.12			急性出血性結膜炎	-	-	0.05	
	感染性胃腸炎	91	3.96	3.67		眼科	流行性角結膜炎	3	0.38	1.46	
	水痘	6	0.26	0.54		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	29	1.26	1.91			無菌性髄膜炎	-	-	0.08	
	伝染性紅斑	17	0.74	0.27			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.31	
	突発性発しん	8	0.35	0.47			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	15	0.65	0.99			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↖	↙	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→	←	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	36
小児科定点数	23
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	3	109	女性(40歳代)、女性(80歳代)、女性(90歳代)
4	日本紅斑熱	1	1	男性(50歳代)
5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	5	男性(60歳代)
5	梅毒	2	58	男性(50歳代)、女性(50歳代)
5	百日咳	19*	54	男性(10歳未満)・8人、女性(10歳未満)・6人、男性(10歳代)・3人、女性(10歳代)・2人

* 2019年第7～33週までに診断された報告遅れの16件を含む。

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

			インフル エンザ	咽頭結 膜熱	A群溶血性 球菌咽頭 炎	感染性胃 腸炎	水痘	手足口 病	伝染性 紅斑	突発性 発疹	ヘルパ ンギー ナ	流行性 耳下腺 炎	RSウイル ス感 染症	急性出 血性結 膜炎	流行性 角結膜 炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズ マ肺炎	クラミ ジア肺 炎	(ロタウ イルス) 感染性 胃腸炎
報告 数	広島市	第30週	-	9	39	80	10	213	10	6	46	2	16	-	8	-	-	-	-	-
		第31週	1	6	32	98	3	141	12	7	34	3	11	-	5	-	-	-	-	-
		第32週	8	13	29	80	12	93	5	12	29	1	25	-	4	-	-	-	-	-
		第33週	3	5	20	39	4	23	1	6	14	1	11	1	3	-	-	-	-	-
		第34週	3	9	32	91	6	29	17	8	15	1	22	-	3	-	-	-	-	-
定 点 当 た り	広島市	第30週	-	0.39	1.70	3.48	0.43	9.26	0.43	0.26	2.00	0.09	0.70	-	1.00	-	-	-	-	-
		第31週	0.03	0.26	1.39	4.26	0.13	6.13	0.52	0.30	1.48	0.13	0.48	-	0.63	-	-	-	-	-
		第32週	0.25	0.59	1.32	3.64	0.55	4.23	0.23	0.55	1.32	0.05	1.14	-	0.67	-	-	-	-	-
		第33週	0.09	0.25	1.00	1.95	0.20	1.15	0.05	0.30	0.70	0.05	0.55	0.14	0.43	-	-	-	-	-
		第34週	0.08	0.39	1.39	3.96	0.26	1.26	0.74	0.35	0.65	0.04	0.96	-	0.38	-	-	-	-	-
	全国	第32週	0.22	0.46	1.16	2.98	0.24	6.88	0.58	0.41	1.88	0.08	1.67	0.01	0.71	0.02	0.03	0.17	-	0.01
		第33週	0.23	0.35	0.74	1.91	0.19	3.04	0.29	0.25	0.95	0.06	1.32	-	0.55	0.02	0.06	0.19	-	0.02

■新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
咽頭結膜熱	発熱(38.7) 下痢 結膜充血	2	男	2019/07/15	咽頭拭い液	アデノウイルス3型
ヘルパンギーナ	発熱(40.8) 口内炎	3	男	2019/07/16	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA6型
その他の疾患	発熱(41.3) 咽頭炎 熱性痙攣	1	女	2019/07/16	鼻汁	パラインフルエンザウイルス3型

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】ダニ類が媒介する感染症に注意しましょう！

-日本紅斑熱／重症熱性血小板減少症候群(SFTS)／つつが虫病-

日本紅斑熱は、日本紅斑熱リケッチアを保有するマダニに刺咬されることで感染します。2～8日の潜伏期間を経て、頭痛、発熱、倦怠感を伴って発症し、発熱、発疹、ダニの刺し口が三大特徴です。患者の多くは、マダニの活動が盛んな春から秋にかけて発生しています。

また、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)やつつが虫病も、ダニ類が媒介する感染症です。これらのダニ類が媒介する感染症を予防するため、次のような対策をとることが重要です。

【ダニに咬まれないためのポイント】

- ・山や草むらに入るときは、長袖・長ズボンや帽子の着用、足を完全に覆う靴を履くなど、肌の露出を少なくする。
- ・屋外活動後は入浴し、ダニが付着していないかチェックする。

【ダニに咬まれたときの対処法】

- ・ダニが吸着していた場合は、皮膚科を受診し、除去してもらいましょう。
- ・発熱等の症状が出た場合は、早めに内科等を受診しましょう。

【参考】ダニ媒介感染症(厚生労働省)

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164495.html>

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。
なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。

URL <http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp

2019年第34週(8月19日～8月25日)